

ボランティア国際年10  
記念シンポジウム  
(公益財団法人三菱財団助成事業)

特集

# 人が人とつながりあうために ～世界各地の実践から学ぶ～

## ITの活用によるボランティア活動の推進(ブラジル)



**ボーンハウゼン** 1998年にボランティアセンターを設立し、ボランティアの参加推進や、ボランティア・NGOのトレーニングを始めました。2006年にセンターに登録しているボランティアの実態を調べたところ、従来、ボランティアは女性や退職者・失業者の活動というイメージだったのが、若者の学生や勤労者、高学歴のボランティアが増えてきており、ボランティア希望者の9割がセンターをインターネットで探し出したことなどが分かりました。

そこでWebサイトを立ち上げ、オンラインで活動を紹介することとしました。その際、ボランティア未経験者や若者、質の高いボランティア、専門家を引き込むこと、NGOがサイトを活用できるように支援したり、優秀な人材が組織に定着するようNGOを支援することが課題でした。

今では、3万8千人以上のボランティア、507のNGOが登録し、1万6千件を越えるマッチング数の

うち、1万2千件がオンライン経由です。また、センターに登録しているボランティアは現在、82%が16歳から39歳で、68%が女性、98%が学生・勤労者、61%は初めてのボランティアです。

ブラジルでは今、ボランティアが増えてきており、多くの専門家や若者がボランティア活動に前向きな姿勢をもち、活動に参加できる状況にあります。さまざまな関係者との戦略的な関係性の強化、新しいボランティアの重要性に関する広報、そして、社会変革にかかわる他のポータルサイトとの連携等によって、テクノロジーを良い意味での社会変革に活用することを目指しています。

## アラブ諸国でのボランティア活動(レバノン)



**ナブティ** アラブ地域には、政府以外には組織がないような抑制された国もありますが、レバノンは非常に開放された文化をもっており、多くの市民が障害者・高齢者、人権・環境のための活動をしています。

文化的な伝統として、コミュニティのメンバーは自発的に協力し合う努力をするという考え方があります。それが次第に変わってきており、お互いにお返しをせずに済ませるために、最初から恩義を受けないようにするようになってきています。協働のプロセスが地域社会のつながりを構築しますが、そうした共同体意識をつくる機会そのものが失われてきています。

また、文化的な障壁もあります。レバノンの場合、宗教を越えて協力することが困難です。また、職業・専門性による区別が顕著です。ステータスの高い人は、例えば、車を洗うといった作業を自分で直接することはありません。そうした親は子どもに単純作業のボランティアをさせたがらないのです。

私たちの活動のなかでも重要なのが、地域のボランティア活動に関するデータベースをつくる事業と、ボランティアのための会議です。会議はネットワークの構築と、活動体験の共有、学校の教育サービスの開発を目標にしています。児童のボランティア精神を育成するための新たな教材の開発も行

いました。出版社や著者にそうした教材を奨励したり、教師用のマニュアルやWebサイトもつくりました。

今後は、貧しいアラブ諸国のボランティアによる開発プロジェクトの資金調達のため、いわゆる富めるアラブ諸国に協力を求めていきたいと思えます。また、アラブの企業の従業員によるボランティア活動を支援するための研修やネットワーキングもしていきたいと考えています。

### 移民など不利な立場にある民族のサポート(コンゴ/イギリス)



**ジェマ** 私自身が移民で、ゼロからのスタートだったのですが、2000年に「アフリカストーン財団」という組織をつくりました。ディアスポラ(移民)の離散家族のための慈善事業です。言語や皮膚の色も違うという障壁のために、不利な状況に置かれた人たちの課題に応えるために活動を行っています。

私たちは東ロンドンで、社会的不利の克服のための技術の共有、スポーツ、教育活動に努力を傾けています。ロンドンにおいても、カメルーンのストリートチルドレンと共通の問題・課題もあるということが分かりました。不利な状況に置かれた子どもがたくさんいます。路上の子どもたちに呼び掛けて活動につなげるには、サッカーしか機会がない場合があります。こういう子どもたちに、路上にいても、あなたには可能性がある、努力をすれば成功するのだということを納得させたかった。そのため、教育を受けるための支援をし、自信をもたせる取り組みをしました。そうして、なかにはプロの選手になった人もいます。

こうした課題の克服のためには、知識とスキルをもっている人の力を発揮させることが重要であると考え、移民にかかわるさまざまな専門家を集めました。アフリカでは150のグループと協力し、イギリスではボランティア・アクションという組織と

協力しています。

アフリカでの取り組みは、ストリートチルドレンや不利な立場に置かれた女性を対象としています。障害のある女性たちが物乞いをして生活をしていましたが、私たちは研修・教育を提供しました。技能だけでなく、接客や営業、どうやって利益を上げるか、資金管理や経費節減の方法などについても教えました。今では繊維関係の仕事をして、ホテルに商品を納めています。

慈善活動だけでは十分に対応できない分野があるということも分かりましたので、イギリスの企業に対して、アフリカへの投資の機会を提供しています。私たちが教育を提供している障害者を、そうした企業とつなぎたいと思っています。

### ボランティア活動に寄せるそれぞれの思いと現状、そして未来

**パービス** ナブティさん、ボランティアには文化的な障壁があるとおっしゃいましたが、どのように克服されたの

コーディネーター

**フィリダ・パービス** さん  
Ms. Phillida Purvis  
リンクス・ジャパン  
創始者・会長



日英間で共通する未解決の社会問題について、経験の共有・共同プロジェクトの実施等を行うリンクス・ジャパンを設立。世界中のボランティア・市民活動関係者と幅広いネットワークをもつ。

プレゼンター

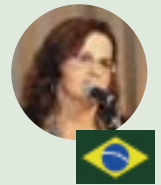
**パトリスア・ナブティ**さん  
Ms. Patricia Nabuti  
IAVE (ボランティア活動推進協議会)レバノン、アラブ諸国地域代表



ボランティアサービス協会創始者・会長で、著書は『Learning to CARE』。「アラブボランティア文化推進協会」で先導的役割を果たしている。

プレゼンター

**フェルナンダ・ボーンハウゼン・サー** さん  
Ms. Fernanda Bornhausen Sa  
Ação ボランティア研究所  
創始者・会長



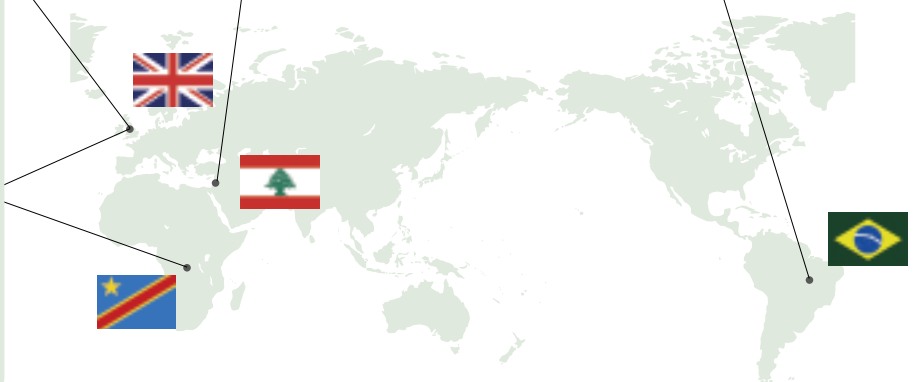
ブラジルで初めてのボランティアの全国的なネットワークを、ITを活用して立ち上げ、参加者層を広げた取り組みを行っている。

プレゼンター

**ヴァレンティン・モリショー・ヨンボ** ジェマ さん  
Mr. Valentin Molisho Yombo Djema  
アフリカストーン財団創始者



離散する民族をサポートするボランティア活動、コミュニティを基盤とするパートナーシップの形成を通して、貧困問題、不利益で悲惨な状況にある人々の支援に取り組んでいる。





でしょうか。  
**ナブティ** ステータスの高い人たちは、子どもたちに、海岸や街頭のゴミを集めるといった

ボランティア活動をしてほしくないと思っています。ですから、ボランティアをするということ、他の人の面倒を見るということ、役に立つということが、子どもたちの教育にもなるということ、そして、自尊心にもつながるということ、それが価値の高いことだということを親にも理解してもらうことが重要です。

それから、子どもたちにプロジェクトに最初から最後まで参加させることも重要だと思います。作業への参加だけでは不十分です。どういう活動をするかという決定のプロセスに参加することから、事後のフォローアップもさせるべきです。

**パービス** 早めの教育が重要ということですね。

**ナブティ** ボランティア活動から得るものは非常に多く、ボランティアは彼ら・彼女らのしたこと以上に得ることが多いのです。自尊心、自信、満足感が得られ、ネットワークとのつながりができます。それが、仕事につながるかもしれません。経験も積むし、社会的なニーズについても学び、技能を身につけるなど、さまざまなことを学びます。これらが報酬なのですけれども、金銭的な報酬ではないということです。

**ジェマ** ボランティアをすることで、変化をもたらしてほしいと思っています。私どもはサクセス・ストーリーを紹介することがありますが、それは、今まで行ってきた活動の評価をすることです。公的資金も使っているわけですので、地域社会に対する説明責任があります。活動する際には、何

を達成したいのかという目標を設定しなければなりません。そして、その目標に対して成果の測定が必要です。

**パービス** ボーンハウゼンさん、オンラインでのボランティアに関して留意していることはありますか。

**ボーンハウゼン** ブラジルではボランティアに関しての法律があり、ボランティア活動をする者は、有給ではないということについての署名契約をしなければなりません。

Webサイトでは免責条項やルールについての整備をしています。オンラインのボランティアに関しては、さまざまなルールがあり、それをきちんと遵守してもらっています。

また、毎日たくさんの方がサイトを見ているのは、そのコンテンツゆえです。このコンテンツづくりには何百というオンラインのボランティアが協力してくれています。

**パービス** ボランティアセンターの活動資金はどうしていますか。

**ボーンハウゼン** ほとんどが民間企業による支援であり、公的資金、政府の資金は得ていません。企業にはサイトの広告スペースを提供しています。また、企業によってはボランティア・NGOのトレーニングなどにも支援してもらっています。

**パービス** ジェマさん、あなたの組織と政府との連携について教えてください。

**ジェマ** 政府が全部できるわけではなく、地域社会だけが分かっている問題や、地域社会だけが果たしうる役割もあると思います。また、同じ移民である、あるいは同じ民族であるということで、理解しアプローチできる面があ



ります。イギリスにおいても、アフリカにおいても、地方の政府に訴えたいのは、地域社会の組織との協力関係を強化しながらすすめていくことが重要だということです。

**パービス** 政府だけではすべてのニーズに応えることはできないため、いろいろな組織と協力をして、それぞれの組織が専門的なノウハウをもってくるということが重要なのですね。



**ナブティ** レバノン是非常に開放的な政府で、たくさんのNGOが関与しています。NGOが社会にとって重要だと思っているのです。アラブ諸国のなかでも抑圧的な政府では、そうした機会があまりありませんが、地域の人たちが社会に対して貢献をしたいと考え始めています。例えば、サウジアラビアは、一見して伝統的で、非常に抑圧的な社会と見られがちなのですが、女性を対象にしたNGOが非常にダイナミックに活動をしています。

そして、今年は「アラブの春」と呼ばれる動きにより、抑制的な独裁政権から民主主義のステップを歩み始めた国があります。社会のさまざまな問題に対して「もうたくさんだ」と思った人たち、「何か変化を起こせる」と思った人たちが引き起こしたのです。

**パービス** 私たちには、それぞれの社会のなかで、変化させたいと思っていること、改善したいと思っていることがあります。ささやかな形ではあれ、その変化に対して努力をする。そういうボランティア活動をしていきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。

(文責・全社協事務局)

## 11/12 開会式

大会 1 日目のメイン会場となった両国国技館では、秋篠宮同妃両殿下をお迎えし、午後 1 時より開会式が行われました。主催者挨拶や来賓祝辞、国連ボランティア計画事務局長フラビア・パンシエーリ氏からのメッセージに続き、秋篠宮殿下からのおことばを賜り、ボランティア功労者への厚生労働大臣表彰などが挙行されました。



▲秋篠宮殿下からのお言葉

▼ボランティア功労者による受賞の挨拶



▲小学校 1 年生から中学 3 年生の子どもたちで構成されている「菊一太鼓」による和太鼓演奏のプロローグ

## 11/12 分科会・フィールドワーク

28 の分科会・フィールドワークに分かれ、各テーマに基づき、課題解決に向けた協議・研修が行われました。



## 11/12 シンポジウム

ボランティア・市民活動の原点や東日本大震災でのボランティア活動を改めて振り返り、社会の課題に向き合い、その解決に向けた取り組み紹介も交え、「強く、しなやかで、暮らしやすい社会」の実現について考えました。

テーマ <sup>わたしたち</sup>市民がつくる、強くしなやかな社会

### シンポジスト

- 阿部 志郎 (横須賀基督教社会館 会長 / 「広がれボランティアの輪」連絡会議 顧問)
- 加雅屋 拓 (NPO 法人 NPO コミュニケーション支援機構 代表)
- 野中 ともよ (NPO 法人 ガイア・イニシアティブ 代表)

### コーディネーター

- 山崎 美貴子 (東京ボランティア・市民活動センター 所長 / 「広がれボランティアの輪」連絡会議 会長)



## 11/12 ふれあい広場

墨田区の魅力、ボランティア・市民活動の魅力を発信しました。



◀両国国技館会場外の「ふれあい広場」



▲次回の開催地・三重県の PR ブース



◀ IYV+10 の PR ブース「つながろうフォト」

### 開催ダイジェスト

## 第 20 回 全国ボランティアフェスティバル TOKYO

平成 23 年 11 月 12 日 (土)・13 日 (日)  
(独立行政法人 福祉医療機構助成事業)

わたしたち  
**市民がつくる、  
強くしなやかな社会**

## クロージングセッション

分科会の出演者も交えながら、実行委員としてのこれまでの思い、2 日間にわたる議論を振り返りました。

コーディネーター：枝見 太郎 (第 20 回全国ボランティアフェスティバル TOKYO 実行委員会 委員長)

登壇者：鹿住 貴之 (同実行委員会 副委員長)  
須藤 美智子 (同実行委員会 副委員長)



## 11/13 分科会・フィールドワーク

大会の 2 日目は、青山エリアに会場を移し、34 の分科会・フィールドワークに分かれ、各テーマに基づき、課題解決に向けた協議・研修が行われました。

## 11/13 引継式・閉会式

来年開催される三重大会の森下達也会長へ、しっかりと大会フラッグが引き継がれ、2 日間の大会は幕を閉じました。

▶「来年は三重でいましょう」と、大会フラッグの引き継ぎ



◀こどもの城児童合唱団によるエンディング